

木々子発 八代の七夕綱へ 国の無形民俗文化財に選択

八代七夕綱保存会

久保田 賢一さん(会長)
榮子さん
(坂本町中谷)



坂本町の^{なかたに}中谷川沿いを上って行くと、最も上流に木々子地区の集落がある。毎年、月遅れの七夕の前日(8月6日)、中谷川を横切るように地区の人たちによって七夕綱が^{たなばたづな}掛けられる。

この七夕綱が「八代・芦北の七夕綱」として今年の3月2日、国の無形民俗文化財(記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財)に選択された。かつては県南部の30カ所以上の地区で行われていたが、今では八代市と芦北町の5カ所で伝承されるのみとなっている。

昭和59年9月10日発行の「(公民)館報さかもと」には「木々子地区の七夕綱が50年ぶりに復活した」との記事が紹介されている。以前は地区の青年団によって行われていたが、途絶えていた。それを、木々子老人クラブの久保田政喜会長(賢一さんの父)など46人の会員が取り組みを再開したそうだ。

復活以来、老人クラブが七夕綱を継続してきた。そして昨年、国の無形民俗文化財選択に向けた動きを契機に「八代七夕綱保存会」が発足。地区の自治会で取り組むことになった。

昨年の七夕綱作りには地区の28人が参加。稲藁や新聞紙などを持ち寄り、濡らした藁を叩いてしなやかにする役や綱を



▲中谷川に張り渡された七夕綱

練る役、藁細工を作る役、おにぎりやだご汁(ぜんざい)の昼食を準備する役などに分かれて作業が進められた。「村じゅう寄って作業をします。皆それぞれに適材適所の役割があつとです」と賢一さんはチームワークの良さを強調する。

鶴や亀、馬、^{わらじ}草鞋など高度な技術が必要な藁細工は「師匠」と呼ばれる人たちが担当。織姫・彦星の人形や扇子、タコなども作られた。「藁細工には五穀豊穡や子孫繁栄などの願いが込められとります」と榮子さん。ヒュータマゴと呼ばれる卵の細工は13個つるすことになっている。「小さい頃は伝染病の赤痢や疫痢が流行っていた。疫病などを、ここから先は通さん(13)ぞ、との願いが込められとつとです」と賢一さん。時代とともに藁細工も少しずつ変わり、鶴や亀は30年ほど前から作るようになったそうだ。「みんなが楽しんで作ってくればよかったです。現代版七夕綱といったところですかね」と賢一さんは笑う。約50個の藁細工がつるされた約30mの綱は、川の両端の支柱に渡され、八朔の節句の9月1日まで張られた。

「坂本では^{にちこう}日光地区の人たちが最後まで七夕綱を続けていました。日光地区にもぜひ復活してほしい」と賢一さんは再開を呼びかけることにしている。

「思いがけない国選択に驚いています。先人たちが残してきた地区の誇りを、なんとかして守り伝えていかなければ。また、坂本だけのものではなく『八代の七夕綱』として親んでもらえるように(市民に)広がってくれば」と賢一さんと榮子さんは語る。



2015.APRIL

No.124

- 3 市立博物館 春季特別展覧会
豪華絢爛!長崎刺繍
- 4 八代市子ども・子育て支援事業計画
- 5 保育料無料化 対象拡大
こども医療費助成
- 6 県議会議員選挙
- 8 新市誕生10周年記念事業
- 9 広告物設置は許可が必要
- 10 国民健康保険税の仮算定
- 11 後期高齢者医療制度・保険料
- 12 介護保険料の改定
- 13 介護保険料の通知書を送付
- 14 地域包括支援センター
- 15 生活困窮者への支援制度
- 16 愛犬に狂犬病予防注射
- 17 市税納期一覧表
- 18 市民カレンダー
- 20 暮らしの情報
- 28 広告
- 32 まちのわだい
- 35 伝言板
- 36 プロ野球ウエスタンリーグ公式戦

広報やつしろは、市ホームページでもご覧いただけます。

トップページ → 総合案内 → 広報やつしろ